

5 梅若万三郎

《奉祝謡舞扇》 二本

昭和三年（一九二八）

紙本彩色、竹

扇・長三三・一

蒔絵箱・三七・九×一三・三×五・三



明治から昭和初期にかけて活躍した能楽師、梅若万三郎（一八六九～一九四六）が献上した二本の扇。いずれも同じ図様のもので、表には飛鶴と亀甲繋ぎの模様を描いて鶴亀とし、金地の霞に梅の花が散らされている。裏面には山崎楽堂作、万三郎作曲による「御大札奉祝謡」の謡本（楽譜）が記される。黒漆に蒔絵で蝶、鳥と瑞雲が表された収納箱がともなう。能楽は、大正四年の大札の折には、宮城（明治宮殿）の正殿の中庭に千二百五十余名を収容できる能楽場が建設され、東京へ天皇が還幸後の十二月七、八日の両日、宮中晩餐に引き続き催された夜宴の中で、各流派の総出によって様々な演目が上演された。この時、万三郎は弟の六郎とともに「猩々乱」を勤めている。また、この扇が献上された昭和三年には、京都において即位礼から間もない十一月二十日に大札奉祝会により御大札奉祝能が催され、万三郎は京都市公会堂において「羽衣」を演じた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大札 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan